

広島交響楽団

→ ザ・シンフォニーホール 大阪公演 ←

平和の夕べ

被爆80周年 *"Music for Peace"*

～マリア・ジョアン・ピリスを迎えて～

“癒し、歓び、祈りの第4番”

「第35回高松宮殿下記念世界文化賞」を受賞したマリア・ジョアン・ピリスと広響の夢の初共演が実現！2022年の復帰以来、日本でのコンチェルト演奏は今回が初！ベートーヴェンとマーラーの「第4番」で世界に向け、音楽による平和のメッセージを届ける！

「ピアノ」
マリア・ジョアン・ピリス

©Felix Brode and Deutsche Grammophon

[ソプラノ] 石橋 栄実★ [指揮] クリスティアン・アルミンク

[管弦楽] 広島交響楽団

ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58
Beethoven:Piano Concerto No.4 in G major op.58

マーラー:交響曲 第4番 ト長調★
Mahler:Symphony No.4 in G major

当日ホールロビーに「明子さんのピアノ」(被爆ピアノ)を展示するとともに、開場時にピアノを弾いていただくことができます。試奏をご希望の方は広響事務局まで事前にお申し込みください。お一人1曲(5分以内)で先着3名様とさせていただきます。
★試奏の様子の動画を楽団SNS等でご紹介する場合がございます。
★昨年アルゲリッチ氏が試奏した様子をYouTubeでご覧いただけます。



2025 8.7 (木) 19:00 開演 (18:00 開場) ザ・シンフォニーホール 主催: 公益社団法人 広島交響楽協会 / ザ・シンフォニーホール
S席一般 11,000円 / S席小・中・高校生 5,500円 A席一般 9,000円 / A席小・中・高校生 4,500円(税込)

ご予約・お問合せ

■ ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (火曜定休) <https://www.symphonycall.jp>

プレイガイド

■ 広響事務局 082-532-3080 (平日9:00～17:20) <http://hirokyo.or.jp> ■ E+ (イープラス) <https://eplus.jp/symphonycall> (パソコン・携帯)
■ ローソンチケット <https://l-tike.com/symphonycall> [Lコード: 54135] ■ チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonycall/> [Pコード: 289-195]

*未就学児のご入場はご遠慮いただいております。*やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。*公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。予めご了承ください。

ホール会員先行 3/27 (木)

一般販売 3/30 (日)

広響事務局 3/31 (月)

被爆80周年にあたる2025年8月、広島交響楽団がザ・シンフォニーホールで「平和の夕べ」コンサートをひらく。指揮は広響音楽監督のクリスティアン・アルミンク。ピアノ独奏には、世界的な名手、マリア・ジョアン・ピリスが招かれる。ピリスは、これまでにアバド&ベルリン・フィル(1998年)、ハイティンク&ロンドン交響楽団(2013年)の独奏者としてザ・シンフォニーホールで名演を繰り広げてきた。今回披露するのは抒情美が際立つベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番。後半に演奏されるマーラーの交響曲第4番とともに音楽で祈りを捧げる。

山田治生



[ピアノ]マリア・ジョアン・ピリス

1944年リスボン生まれの現代を代表するピアニスト。ソロ・リサイタルや室内楽奏者として、またアバド、ハーディング、プロムシュテット等の指揮者とウィーン・フィル、ベルリン・フィルやロンドン・フィルを始めとする各地の主要オーケストラとの共演で世界を魅了してきた。エラートやドイツ・グラモフォンを中心に数多くのレコーディングも行い、特に2回の全集があるモーツァルトのソナタ集やベートーヴェン、シューベルト、ショパン等多くの銘盤を残してきた。1999年にポルトガルにベルガイシュ芸術研究センターを設立し、ワークショップを通し若い音楽家の育成に励んでいる。

2024年度高松宮殿下記念世界文化賞を受賞した。

[指揮]クリスティアン・アルミンク



ウィーン生まれ。レオポルド・ハーガーや小澤征爾のもとで研鑽を積み、ルツェルン歌劇場の音楽監督などを経て、2003～13年に新日本フィル、2011～19年にベルギー王立リエージュ・フィルの音楽監督として活躍。2017年から広島交響楽団の首席客演指揮者を務め、2024年に同団の音楽監督に就任した。これまでにチェコ・フィル、ベルリン・ドイツ響、フランクフルト放送響、ザルツブルク・モーツァルテウム管、ウィーン響、トゥールーズ・キャピトル国立管、ローマ・サンタ・チェチーリア国立管、ボストン響、N響などに招かれ、オペラでは

フランクフルトやストラスブールの歌劇場、新日本フィルなどで《ドン・ジョヴァンニ》《サロメ》《ホフマン物語》《フィレンツェの悲劇》などを指揮している。

[ソプラノ]石橋栄実



大阪音楽大学専攻科修了。大阪舞台芸術奨励賞、咲くやこの花賞、他受賞多数。(独)ケムニッツ市立劇場「ヘンゼルとグレーテル」にグレーテル役として招かれて以来、新国立劇場公演をはじめとする数多くのオペラに出演し続けている。また、バッハ「マタイ受難曲」、メンデルスゾーン「エリア」、モーツァルト「戴冠ミサ」「ミサ曲ハ短調」「レクイエム」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」、マーラー「交響曲第4番」、ヴェルディ「レクイエム」、ドヴォルザーク「スターバト・マーテル」、

オルフ「カルミナ・ブラーナ」などのソリストとして全国のオーケストラと多数共演。「NHKニューイヤーオペラコンサート」出演。大阪音楽大学教授。

[管弦楽]広島交響楽団

国際平和文化都市「広島」を拠点に“Music for Peace ～音楽で平和を～”を旗印として活動するプロオーケストラ。2024年よりクリスティアン・アルミンクが音楽監督に、徳永二男がミュージック・アドバイザーに就任。下野竜也が桂冠指揮者、秋山和慶が終身名誉指揮者を務める他、ウィーン・フィル、コンサートマスターのフォルクハルト・シュトイデをミュージック・パートナーに、細川俊夫をコンポーザー・イン・レジデンスに、マルタ・アルゲリッチを平和音楽大使に迎えている。1963年「広島市民交響楽団」として設立、1970年に「広島交響楽団」へ改称。地域に根差した楽団として「広響」の愛称で親しまれる。2023年には創立60周年を迎えた。



明子さんのピアノ

このピアノは、1926年 アメリカBaldwin社で製造されました。ロサンゼルスで生まれた少女 河本明子さんが愛用していました。1933年(昭和8年)河本源吉・シヅ子さん夫妻と共に広島に移り住みました。1945年(昭和20年)8月6日 原爆投下。学徒動員での作業中に明子さんは被爆し、翌7日夕方19歳の生涯を閉じました。病名は「急性放射能障害」でした。ピアノも爆風により、多くのガラス破片で傷つきました。

2005年(平成17年)8月、調律師 坂井原浩氏によって困難な修復作業によって音色を甦らせました。8月3日 被爆60周年記念「被爆ピアノ・チャリティーコンサート」が開催されました。以来「明子さんのピアノ」は、あの日の出来事を現在へ伝える貴重な「被爆遺品」として、平和の調べを奏でています。

(一般社団法人 HOPE プロジェクト ウェブサイトより)



クリスティアン・アルミンク&広響の演奏やザ・シンフォニーホールでの演奏を一部YouTube(広響チャンネル)でご覧いただけます。

クリスティアン・アルミンク
&広響
ベートーヴェン:
交響曲第7番より



クリスティアン・アルミンク
&広響
ブラームス:
交響曲第4番より



下野竜也&広響
ブルックナー:
交響曲第8番より



フォルクハルト・シュトイデ
&広響
ベートーヴェン:
交響曲第7番より

